

## 安全データシート

## 1. 化学品等及び会社情報

化学品等の名称	2% フェリシアン化カリウム溶液
会社名	武藤化学株式会社
住所	東京都文京区本郷2-10-7
電話番号	03-38/14-5511
ファックス番号	03-3815-4832
緊急連絡電話番号	03-3814-5511
推奨用途及び使用上の制限	検査・研究用

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類 (注)記載なきGHS分類区分: 該当せず/分類対象外/区分外/分類できない

## 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別	混合製品	
化学名又は一般名	フェリシアン化カリウム	精
濃度又は濃度範囲	2%	
化学式	C6FeK3N6	F
CAS番号	13746-66-2	
官報公示整理番号(化審法)	1-134	
分類に寄与する不純物及び安定化添加物	情報なし	

## 4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息分が悪いときは医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、又は取り多量の水と石鹼で洗うこと。 直ちに医師に連絡すること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズ容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続け医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。必要に応じて医師に連絡すること。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	情報なし
応急措置をする者の保護	情報なし
医師に対する特別な注意事項	情報なし

## 5. 火災時の措置

消火剤	水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂
使ってはならない消火剤	情報なし
特有の危険有害性	情報なし
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却す
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置  
 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。  
 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として関係者以外の立入りを禁止する。  
 風上に留まる。  
 作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止措置及び係参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。  
 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高保護衣を着用する。  
 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器が触れてはいけない。  
 密閉された場所を換気  
 環境中に出してはならない。  
 河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように希釈水は汚染を引き起こすおそれがある。  
 希釈水は腐食性及び/又は毒性があり汚染を引き起こす。  
 本製品は、水汚染物なので土壌汚染、もしくは排水;漏洩物を掃き集めて密閉できる空容器に回収し、後

環境に対する注意事項

封じ込め及び浄化の方法及び機材

7. 取扱い及び保管上の注意

<p>取扱い 技術的対策</p> <p>安全取扱い注意事項</p> <p>接触回避 衛生対策</p> <p>保管 安全な保管条件</p> <p>安全な容器包装材料</p>	<p>『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を着用する。          『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、火気注意。          取扱い後はよく手を洗うこと。          飲み込みを避けること。          皮膚との接触を避けること。          粉じん、ヒュームの吸入を避けること。          ガスの吸入を避けること。          眼、皮膚に付けないこと。          粉じん、ヒュームを吸入しないこと。          ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。          眼に入れないこと。          取り扱い後は手を洗う。          皮膚と接触しないこと。          汚染された作業衣は作業場から出さないこと。          接触、吸入又は飲み込まないこと。          『10. 安定性及び反応性』を参照。          取扱い後はよく手を洗うこと。          汚染された作業衣は作業場から出さないこと。</p> <p>技術的対策: 特別に技術的対策は必要としない。          保管条件: 特に技術的対策は必要としない。          暗所、換気の良い場所で保管すること。          容器を密閉して保管すること。</p> <p>ガラス、ポリエチレン、ポリプロピレン</p>
---	---

8. ばく露防止及び保護措置

<p>管理濃度</p> <p>許容濃度 日本産衛学会</p> <p>ACGIH</p> <p>設備対策</p>	<p>データなし</p> <p>データなし</p> <p>1mg/m<sup>3</sup>(鉄水溶性塩として) (TLV-TWA)</p> <p>この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安置すること。          局所排気装置を使用する。</p>
---	---

保護具 呼吸用保護具 手の保護具 目の保護具 皮膚及び身体の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。 適切な保護手袋を着用すること。 適切な目の保護具を着用すること。 適切な保護衣を着用すること。
---	--

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态 形状 色 臭い 臭いのしきい(閾)値 pH 融点 溶解度 n-オクタノール／水分配係数 自然発火温度 分解温度 粘度(粘性率)	液体 褐色 無臭 情報なし データなし データなし データなし 情報なし データなし 情報なし 情報なし
--	--

10. 安定性及び反応性

反応性 危険有害反応可能性  避けるべき条件 混触危険物質 危険有害な分解生成物	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考え 加熱すると分解し、有毒な気体(シアン化水素等)を生 じ、シアン化物を生成し、中毒の危険をもたらす。  混触危険物質との接触。加熱。 酸、強酸化剤 シアン化物
---	--

11. 有害性情報

急性毒性 経口  経皮 皮膚腐食性及び皮膚刺激性  眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性  生殖細胞変異原性  発がん性  生殖毒性 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 吸引性呼吸器有害性	区分外  分類できない 区分外  区分外  分類できない  分類できない  分類できない 分類できない 分類できない 分類できない。
---	--

12. 環境影響情報

生態毒性 水生環境有害性(急性)  水生環境有害性(慢性)	データーなし  データーなし
-------------------------------------	----------------------

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り処理を行って危険有害性の 態にする。 廃棄方法は紺青法(難溶性錯化合物溶 う。 水に溶かして硫酸第一鉄を加えて、難 錯体を生成させ、凝集沈殿法により沈殿除去する。 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基
-------	---

汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに基準に従って適切な処分を行う。  
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する

14. 輸送上の注意

国際規制

国連番号

分類しない

国内規制 海上規制情報

船舶安全法の規定に従う。

航空規制情報

航空法の規定に従う。

陸上規制情報

該当しない

特別安全対策

重量物を上積みしない。

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、漏れ、積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

15. 適用法令

労働安全衛生法

該当しない

化学物質排出把握管理促進法

該当しない

毒物及び劇物取締法

該当しない

航空法

該当しない

船舶安全法

該当しない

労働基準法

該当しない

16. その他の情報

参考文献

全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。また、新しい資料の出版により内容に変更が生じます。重要な決定等に利用される場合には、出典等をよく確認し、試験によって確かめることをお勧めします。記載のデータや評価に関してはいかなる保証もいたしません。また、記載事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特殊な取扱いをする場合、用途・用法に適した安全対策を実施した上、お取扱い願います。当製品の譲渡時には本SDSを添付いたします。

2017年2月28日

製水  
98%

H2O

させること。気

去ること。

を着用して  
ること。直ちに

。

類

。  
する。

隔離する。

『保護措置』の項を

い、不浸透性の

るいは漏洩物に

注意する。

にすおそれがあ

溝及び排水系及  
で廃棄処理す

行い、保護具を

全体換気を行

全シャワーを設

えられる  
Eじる。酸と反応

レベルを低い状  
E殿法)により行  
容性の鉄シアノ  
準に従うこと。

に地方自治体の  
ること。

れのないように

知見の発表や従  
く検討される  
とするものではあ  
には新たな用  
添付してくださ